

国語 第6学年 資料を使って、みりよく的なスピーチをしよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の2月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

これまでの経験と今の考えを、資料を使って聞き手に伝える。資料を示すこと自体を目的にせず、口頭だけでは伝わりにくい経験や変化のどこを補うのかを決める。単元の終わりに残すのは、スピーチメモと資料使用の計画。伝えたい考え、根拠となる経験、資料で補う内容、見せる時点、話し方を記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)イ	イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕A話すこと・聞くこと(1)ウ	ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

単元の目標

話し言葉と書き言葉の違いに気付き、聞き手が聞き取れる言い方を使える。資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話し言葉と書き言葉の違いに気付き、聞き手が聞き取れる言い方を使っている。（〔知識及び技能〕(1)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫している。（A(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全6時間（話・聞⑥）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○聞き手と目的を確かめ、これまでの経験から伝えたい考えを選ぶ。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○中心となる考えと経験を整理し、資料で補う内容を決める。	知①（語句や内容の整理）
	3	○資料を選んで説明の言葉を用意し、スピーチの順を考える。	学習状況を見て支援する。
	4 （本時）	○資料を示す時点と説明の仕方を試し、聞き手の反応で直す。	思①（発言・学習記録）
	5	○スピーチを行い、話と資料がどう対応していたかを互いに伝える。	学習状況を見て支援する。
第3次	6	○録音やメモを見直し、資料を使った効果と今後直したい点をまとめる。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この資料を示すと、話だけの場合より何が伝わりますか。どのタイミングで、どこを示すと分かりやすいですか」 【めあて】これまでの経験と今の考えを、資料を使って聞き手に伝える。 〈予想される児童の反応〉 ・話と同じ文章を出すだけなら資料は要らない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「この資料を示すと、話だけの場合より何が伝わりますか。どのタイミングで、どこを示すと分かりやすいですか」 スピーチの中で資料を使って補いたい内容を選び、資料を示す箇所と言葉を原稿に記す。資料を実際に示して発表し、聞き手は何が伝わったかを返す。示す時点や説明の量を変えて再度話し、伝わり方を比較する。 〈予想される児童の反応〉 ・話と同じ文章を出すだけなら資料は要らない。 ・成長の前後が見える記録なら理由が伝わる。 ・見てもらう間を取らないと話も資料も追えない。	話の中心と資料が示すことを対応させ、なくても伝わる資料は外す。資料の実物や自作の図を使い、出典と写っている人の扱いを確認する。資料を使えない環境では紙を示す位置を試す。 想定する難しさ：写真の枚数や画面の見栄えに力を使う。資料を映して読み上げるだけになる。個人情報を含む写真を不用意に使う。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫している。（資料を示す位置を記した原稿・発表と調整の観察）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達のことを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・見てもらう間を取らないと話も資料も追えない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この資料を示すと、話だけの場合より何が伝わりますか。どのタイミングで、どこを示すと分かりやすいですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、写真の枚数や画面の見栄えに力を使う。資料を映して読み上げるだけになる。個人情報を含む写真を不用意に使う。この場合は、話の中心と資料が示すことを対応させ、なくても伝わる資料は外す。資料の実物や自作の図を使い、出典と写っている人の扱いを確認する。資料を使えない環境では紙を示す位置を試す。おおむね満足できる状況は、資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

スピーチメモと資料使用の計画。伝えたい考え、根拠となる経験、資料で補う内容、見せる時点、話し方を記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時間・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」208行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

